

都市再生整備計画 事後評価シート  
本町地区

平成24年 3月

広島県 竹原市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	広島県	市町村名	竹原市	地区名	本町地区			面積	25ha				
交付期間	平成19年度～平成23年度	事後評価実施時期	平成23年度	交付対象事業費	431百万円	国費率	0.357						
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	高次都市施設(「道の駅」整備事業<観光情報・地域交流スペース>)／地域生活基盤施設(歴史的地区歩行者案内サイン整備事業)／高質空間形成施設(歴史的地区側溝蓋整備事業)										
		提案事業	地域創造支援事業(「道の駅」整備事業<その他スペース>)／地域創造支援事業(歴史的地区賑わい創造事業)										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	-	削除/追加の理由		-							
		提案事業	・地域創造支援事業(歴史的地区賑わい創造事業)	・他省庁の助成で実施していたことから、関連事業に移行する。		・影響なし							
		新たに追加した事業	基幹事業	・高質空間形成施設(歴史的地区景観舗装整備)	・周辺の石畳舗装との調和を図り、地区全体として高質な景観を形成するため。		・影響なし						
提案事業	・事業活用調査(事後調査)	・H23で事業完了にともない、今後のまちづくりを検討するため。		・影響なし									
交付期間の変更	当初	平成19年度～23年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-								
	変更	-	-		-								
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期			
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
	指標1	立寄台数	万台/年	0.5	H17	39.0	H23	-	22.0	△	あり	・道の駅や誘導サインの整備により、立寄台数は増加した。 ・しかし、高速1000円割引廃止、繁忙期、イベント時の駐車容量の不足により立寄台数は減少したと推測され、目標数値の達成には至らなかった。	平成24年10月
	指標2	入込観光客数	万人/年	55.0	H17	66.0	H23	-	64.6	△	あり	・道の駅の整備により、伝建地区への入込観光客数が増加し、地域間交流が活発化した。 ・平成23年度に実施した道の駅でのアンケート調査結果より、道の駅の利用目的は、「観光やレジャーのついでに」と回答した人が全体の25%と最も多く、市内の観光施設間での回遊性が向上した。	平成24年4月
指標3	入館者数	人/年	21,607	H17	26,000	H23	-	22,474	△	あり	・道の駅や誘導サインの整備により、伝建地区へのアクセシビリティや利便性の向上が図られた。 ・松坂邸、歴史民俗資料館、光本邸、森川邸などの主要4施設の入館者数は増加したものの、町並み保存センターは、建物の老朽化や展示物の陳腐化により、市民からの大規模改築(全面リニューアル)の要望が高かったものの実現できなかったため、入館者数は減少し、目標数値の達成には至らなかった。	平成24年4月	
										なし	●		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1	道の駅施設利用者数	万人/年	2.5	H21	/	/	/	34.4	/	/	・道の駅や誘導サインの整備により、伝建地区への入込観光客数が増加し、地域間交流が活発化した。 ・また、竹原市内からの利用者が約2割あり、地域間交流だけでなく、地域活性化が期待される。	平成24年10月
	その他の数値指標2	災害時における避難所の収容人口カバー率	%	46.2	H20	/	/	/	53.4	/	/	・道の駅の整備により、伝建地区周辺において、災害時における避難所の収容人口カバー率が7.2ポイント増加し、伝建地区周辺人口の約半数以上をカバーすることが出来、地区の安心・安全性が高まった。	-
	その他の数値指標3	伝建地区における入込観光客数	人/年	27,278	H18	/	/	/	35,408	/	/	・道の駅や誘導サインの整備により、伝建地区への入込観光客数が増加し、地域間交流が活発化した。	平成24年4月
4)定性的な効果発現状況	<p>・「道の駅」だけはワークショップにより、地元住民の地域づくり・地域振興への取組み意向を高めるとともに、市と地域住民との協働体制が築かれた。また、「道の駅」について地元住民の意見や要望を踏まえた「道の駅」だけは(仮称)提言書が作成された。</p> <p>・道の駅で実施したアンケート調査結果より、道の駅に対して「気軽に入れる雰囲気」や「駐車場など付帯施設等の利用のしやすさ」への満足度が高いことが何れも、快適性やアクセシビリティが向上したと評価されている。</p> <p>・また道の駅には、地元産物の販売スペースや地域交流スペースなど多目的利用できる場所が整備されており、地元の方から「まちづくりの拠点」としての賑わいが生まれたとの声を得ている。</p> <p>・側溝蓋の整備により、快適な歩行空間が確保され、地域住民の方から安心・安全性が高まったとの声を得ている。</p>												
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	なし			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-				
	住民参加プロセス	「道の駅」だけはワークショップ(平成18年度に6回)			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後も魅力的「道の駅」の活用ができるよう、定期的に地域住民との話し合いを行い意見を反映させる。				
持続的なまちづくり体制の構築	地域活性化に向け、「NPO法人ネットワーク竹原」や「竹原町並保存会」を中心に住民参加型のイベントや地域コミュニティの創出支援の取り組みがされた。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後も魅力的かつ継続的な地域活動が推進できるよう、市は協力体制を整える。					

## 様式2-2 地区の概要

### 本町地区 都市再生整備計画事業の成果概要

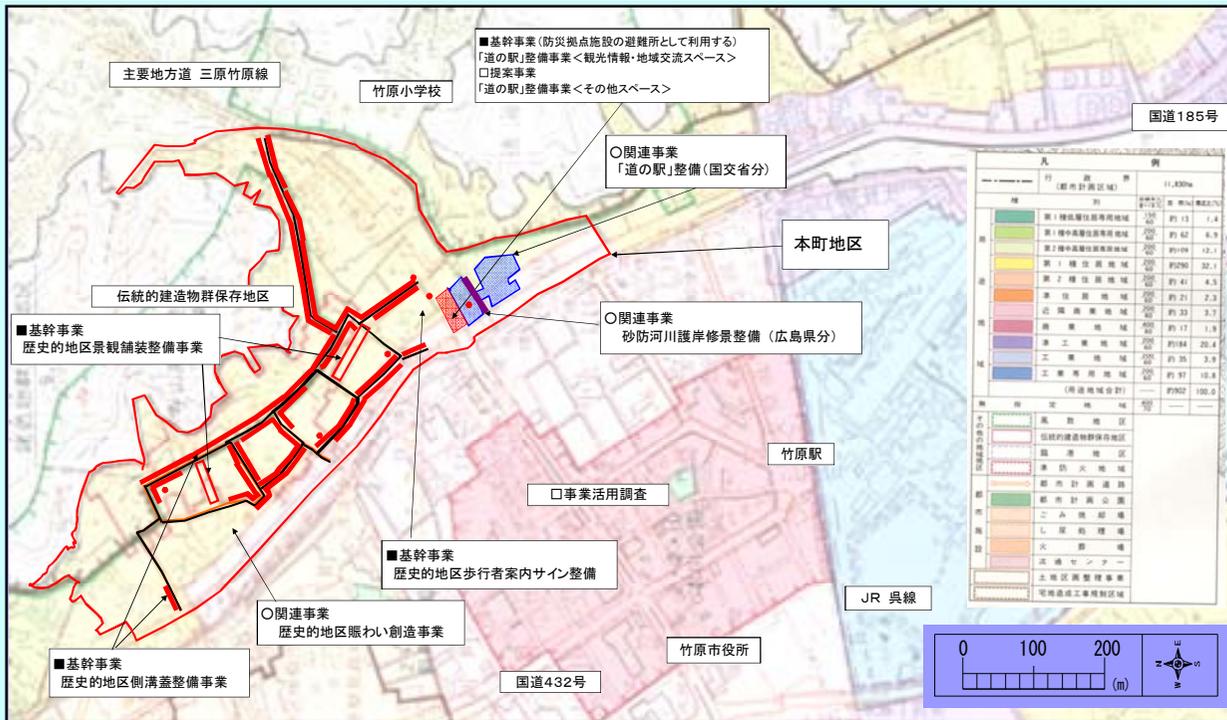
まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値		目標値		評価値		
		値	年	値	年	値	年	
大目標：伝統的建造物群保存地区を中心とした、安全・安心・賑わいのある街づくり。 目標1：「道の駅」の整備により、通過交通に対し竹原市への誘いを誘発するとともに、災害時には、緊急避難所として利用可能な「道の駅」とする。 目標2：側溝整備、市街地空間の高質化、利便性の向上により、観光資源のレベルアップを図り、観光都市としての集客性を向上させる。	立寄台数	単位：万台/年	0.5	H17	39.0	H23	22.0	H23
	入込観光客数	単位：万人/年	55.0	H17	66.0	H23	64.6	H23
	入館者数	単位：人/年	21,607	H17	26,000	H23	22,474	H23
	道の駅施設利用者数	単位：万人/年	2.5	H21	-	-	34.4	H23
	災害時における避難所の収容人口カバー率	単位：%	46.2	H20	-	-	53.4	H23
	伝建地区における入込観光客数	単位：人/年	27,278	H18	-	-	35,408	H23



地域創造支援事業、高次都市施設事業：道の駅整備関連事業



地域生活基盤施設：サイン整備



高質空間形成施設：側溝蓋整備



地域創造支援事業：憧れの路（町並みアートギャラリー）

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝建地区では、景観に配慮した側溝蓋の整備や誘導サインの設置により、快適な歩行空間が確保され、快適性や回遊性が高まった。</li> <li>・駐車場、観光情報、物販コーナーを有した「道の駅」の整備により、利便性が向上し観光客数が増加した。また、災害時には防災拠点として、地域住民の安心・安全性が高まったが、新たな課題として、「道の駅」が防災拠点であるという認識が薄いため、周辺地域への意識づけに加え、災害時のスムーズな利活用を推進する必要がある。</li> <li>・イベント「憧れの路」などにおいて観光協会や商工会議所などの関係団体とも連携して、地域の活性化や交流人口の拡大につなげていく必要がある。</li> </ul>
今後のまちづくりの方策（改善策を含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道の駅の利用に対して、市民の意見を聴取し、利活用を推進するとともに、更なる町並保存地区へのエンタランス機能向上を図る。また、避難所としての機能を維持し、防災拠点としての「道の駅づくり」を地域住民とともに推進し、地域の安全・安心を高める。</li> <li>・伝建地区への回遊性を高める策としては、裏路地の活用や市民が主体となった取組み、駐車場の確保、情報発信（メディアへのPR活動）等を推進する。</li> <li>・竹原市の魅力を外へ発信し、観光施設への回遊性を高め、魅力ある伝建地区づくりに努めるとともに、道の駅から伝建地区への沿道施設の魅力向上を図る。</li> <li>・道の駅を核とした観光事業を推進するため、地域住民や民間企業との協働・連携の基、観光客増加に向けた施策を推進する。</li> <li>・側溝蓋の維持・管理に地域住民も携われる環境づくりを推進する。</li> </ul>

# 都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

## (6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

## (7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●	-	-	-
B. 目標を定量化する指標		●	-	-	-
C. 目標値		●	-	-	-
D. その他( )		●	-	-	-

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路									
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	竹原市本町	20.0	25基	12.5	6基	地域生活基盤施設(サイン整備)について、伝統的建造物群保存地区への誘導サインのみの整備にとどめたため、事業費および事業内容を変更。	・入館者数に関連するが、指標および数値目標は据え置く。	●	-
高質空間形成施設	竹原市本町	15.0	480m	96.0	1,610m,380m	現地再調査の結果、劣化が進行している側溝蓋が確認されたため、地域全体の高質環境を創出するために事業費および事業内容を変更。	・入館者数に関連するが、指標および数値目標は据え置く。	-	●
高次都市施設	竹原市本町	168.0	420㎡	149.9	326㎡	今回、工事完了に伴い精査した結果、基幹事業・提案事業別に再配分したため変更。	影響なし	●	-
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業									
市街地再開発事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
住宅街区整備事業									
地区再開発事業									
人にやさしいまち づくり事業									
優良建築物等整備 事業									
住宅市街地総合整 備事業									
街なみ環境整備事 業									
住宅地区改良事業 等									
都心共同住宅供給 事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整 備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業

事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	「道の駅」整備事業<その他スペース>	112.0	280㎡	169.1	367㎡	今回、工事完了に伴い精査した結果、基幹事業・提案事業別に再配分したため変更。	影響なし	●	-
	歴史的地区賑わい創造事業	15.0	イベント等	-	-	他省庁の補助事業で実施してきたため、提案事業から関連事業に変更する。	影響なし	●	-
事業活用調査	事後調査			3.8	資料作成一式	H23で事業完了にともない、今後のまちづくりを検討するため。	影響なし	●	-
まちづくり 活動推進事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと



添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
			基準 年度			基準 年度		目標 年度					あり	なし	
指標1 立寄台数	万台/年	平成23年8月時点における平日・休日昼間12hの「道の駅」駐車場への入庫台数を計測し、計測した入庫台数に、夜間の入庫台数として、平成17年度道路センサス該当調査区間における夜間交通量に立寄率を乗じた台数を加え、年換算(平日245日・休日120日)することで「道の駅」立寄台数を推計する。なお、計測時点(平成23年8月)においては全ての事業が完了していないため、見込みの値とする。	-	-	0.5	H17	39.0	H23	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
									事後評価	確定		22.0	事後評価		
指標2 入込観光客数	万人/年	「観光客統計」により過去5年間(平成18年～平成22年)の入込観光客数を計測し、平成23年(1月～12月)を推計する。なお、計測時点(平成23年7月)においては全ての事業が完了していないため、見込みの値とする。	-	-	55.0	H17	66.0	H23	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
									事後評価	確定		64.6	事後評価		
指標3 入館者数	人/年	町並み保存センターへの入館者数(駐在する推進員が計測した値)により、平成22年度の入館者数を計測する。なお、計測時点(平成23年7月)においては全ての事業が完了していないため、見込みの値とする。	-	-	21,607	H17	26,000	H23	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
									事後評価	確定		22,474	事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	「道の駅」供用とともに従前値より約21万台増加しているが、高速1000円割引廃止、繁忙期、イベント時の駐車容量の不足等から、道の駅への立寄台数も少なくなったことが推測され、大幅に数値目標を下回り達成できなかった。	立寄台数の目標値については、道の駅の立寄率の設定が都市型ではなく近郊型に設定されていたため、現実的な目標値の設定ができていなかった。
指標2	「道の駅」の整備により、観光客数は大幅に増加し、従前値は上回ったものの、数値目標は達成できなかった。	-
指標3	道の駅の駐車場を利用し、町並み保存センターへ来館する人も多く、「道の駅」供用とともに従前値より約870人増加して従前値は上回ったものの、建物の老朽化や展示物の陳腐化により、町並み保存センターの魅力が低下していることが推測され、入館者数が減少し、数値目標を下回り達成できなかった。	-

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)
			基準年度		基準年度						
その他の数値指標1	道の駅施設利用者数	万人/年	-	-	2.5	H21	モニタリング	-	-	大目標の達成度を把握する上で、道の駅施設利用者数が地域活性化(賑わい)や交流人口の拡大を表す指標としてふさわしいと判断されるため。	-
							事後評価	確定	見込み		
その他の数値指標2	災害時における避難所の収容人口カバー率	%	-	-	46.2	H20	事後評価	確定	見込み	目標1の達成度を把握する上で、「道の駅」が防災機能を表す指標の避難所として位置づけられており、避難所の収容人口カバー率が伝建地区の安心・安全を図る指標としてふさわしいと判断されるため。	-
								●			
その他の数値指標3	伝建地区における入込観光客数	人/年	-	-	27,278	H18	事後評価	確定	見込み	目標2の達成度を把握する上で、地域生活基盤施設(サイン整備)供用後の伝建地区における入込観光客数が、事業の効果を表す指標としてふさわしいと判断されるため。	-
								●			

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいいます。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

「道の駅」だけはワークショップにより、地元住民の地域づくり・地域振興への取組み意向を高めるとともに、市と地域住民との協働体制が築かれた。また、「道の駅」について地元住民の意見や要望を踏まえた「道の駅」だけは(仮称)提言書が作成された。

道の駅で実施したアンケート調査結果より、道の駅に対して「気軽に入れる雰囲気」や「駐車場など付帯施設等の利用のしやすさ」への満足度が高いことが伺われ、快適性やアクセス性が向上したと評価されている。

また道の駅には、地元産物の販売スペースや地域交流スペースなど多目的利用できる場所が整備されており、地元の方から「まちづくりの拠点」としての賑わいが生まれたとの声を得ている。

側溝蓋の整備により、快適な歩行空間が確保され、地域住民の方から安心・安全性が高まったとの声を得ている。

**(2) 実施過程の評価**

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

**添付様式3-① モニタリングの実施状況**

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

**添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況**

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
「道の駅」たけはらワークショップ	予定どおり実施した	●	【実施頻度】下記年度に6回 【実施時期】平成18年度 【実施結果】 ・「道の駅」の活用方法について話し合うワークショップが開催され、地元住民の地域づくり・地域振興への取組み意向を高めるとともに、市と地域住民との協働体制が築かれた。 ・また、「道の駅」について地元住民の意見や要望を踏まえた「道の駅」たけはら(仮称)提言書が作成された。	今後も魅力ある「道の駅」の活用ができるよう、利用者や地域住民からの要望等を把握し改善を行い、利用促進につなげる。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

**添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況**

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
地域のにぎわい再生に向け、地域固有の歴史・文化的なまちなみを保存するなどの地域活動を実施。	予定どおり実施した		【組織名】NPO法人ネットワーク竹原 【取組】竹原の地域活性化に向け、住民による地域の歴史・文化に関する調査・研究を行い、新しい地域社会の構築、住民の自治意識の向上、地域コミュニティの創出支援に取り組んでいる。	今後も魅力的かつ持続的な地域活動が推進できるよう、市は協力体制を整える。
	予定はなかったが実施した	●		
	予定したが実施できなかった (理由)			
伝建地区において、清掃活動やイベントの実施。	予定どおり実施した		【組織名】竹原町並保存会 【取組】竹原の歴史と文化を守ることを通して、地域との交流を図り、イベント運営や景観保全に向けた取り組みを実施している。	今後も魅力的かつ持続的な地域活動が推進できるよう、市は協力体制を整える。
	予定はなかったが実施した	●		
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画庁内連絡会議	・建設課、都市整備課、観光交流室、文化生涯学習室、総務課	平成23年10月25日	建設課(主管課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類		指標2		その他の数値指標1		その他の数値指標2		その他の数値指標3	
指標名		入込観光客数		道の駅施設利用者数		災害時における避難所の収容人口カバー率		伝建地区における入込観光客数	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見		
基幹事業	地域生活基盤施設(竹原市本町)	◎	・道の駅の整備により、伝建地区への入込観光客数が増加し、地域間交流が活発化した。  ・平成23年度に実施した道の駅でのアンケート調査結果より、道の駅の利用目的は、「観光やレジャーのついでに」と回答した人が全体の25%と最も多く、市内の観光施設間での回遊性が向上した。	◎	・道の駅や誘導サインの整備により、伝建地区への入込観光客数が増加し、地域間交流が活発化した。  ・また、竹原市内からの利用者が約2割あり、地域間交流だけでなく、地域活性化が期待される。	-	・道の駅の整備により、伝建地区周辺において、災害時における避難所の収容人口カバー率が7.2ポイント増加し、伝建地区周辺人口の約半数以上をカバーすることが出来、地区の安心・安全性が高まった。	◎	・道の駅や誘導サインの整備により、伝建地区への入込観光客数が増加し、地域間交流が活発化した。
	高質空間形成施設(竹原市本町)	○		○		-			
	高次都市施設(竹原市本町)	◎		◎		◎			
提案事業	地域創造支援事業(「道の駅」整備事業<その他スペース>)	◎		◎		◎		◎	
	地域創造支援事業(歴史的地区賑わい創造事業)(削除)	-		-		-			
	事業活用調査(事後調査)	-		-		-			
関連事業	「道の駅」整備	◎		◎		◎		◎	
	砂防河川護岸修景整備	○		○		-			
	歴史文化交流センター整備事業(削除)	-		-		-			
	歴史的地区にぎわい創造事業	○		○		-		◎	

※指標改善への貢献度  
 ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。  
 ○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。  
 △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。  
 -：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	指標2	その他の数値指標1	その他の数値指標2	その他の数値指標3
	・今後も、竹原市の魅力を外へ発信するとともに、観光施設への回遊性を高めるため、竹原市を舞台としたアニメ「たまゆら」と観光施設とのコラボレーションを継続するとともに、竹原市のマスコットキャラクター(かぐやパンダ等)を活用し、地域の活性化を図る。 ・また、広島県の「瀬戸内 海の道構想」による観光客増加に向けた施策を推進する。	今後も、道の駅の利用に対して、市民の意見を把握するとともに、行政および各種NPO等との協働・連携しながら、利活用を推進する。	今後も、避難所としての機能を維持し、防災拠点としての「道の駅づくり」を地域住民とともに推進し、地域の安全・安心を高める。	今後も、魅力ある伝建地区づくりに努めるとともに、伝建地区への沿道施設の魅力向上を推進する。

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標3							
指標名		立寄台数			入館者数							
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	指標改善への貢献度	総合所見	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	地域生活基盤施設(竹原市本町)	△	・道の駅や誘導サインの整備により、立寄台数は増加した。  ・しかし、高速1000円割引廃止、繁忙期、イベント時の駐車容量の不足により立寄台数は減少したと推測され、目標数値の達成には至らなかった。	III	△	・道の駅や誘導サインの整備により、伝建地区へのアクセス性や利便性の向上が図られた。  ・松阪邸、歴史民俗資料館、光本邸、森川邸などの主要4施設の入館者数は増加したものの、町並み保存センターは、建物の老朽化や展示物の陳腐化により、市民からの大規模改築(全面リニューアル)の要望が高かったものの実現できなかったため、入館者数は減少し、目標数値の達成には至らなかった。						
	高質空間形成施設(竹原市本町)	-			△							
	高次都市施設(竹原市本町)	△			△							
提案事業	地域創造支援事業(「道の駅」整備事業<その他スペース>)	△			△							
	地域創造支援事業(歴史的地区賑わい創造事業)(削除)	-			-							
	事業活用調査(事後調査)	-			-							
関連事業	「道の駅」整備	△			△							
	砂防河川護岸修景整備	-			-							
	歴史文化交流センター整備事業(削除)	-			-							
	歴史的地区にぎわい創造事業	△			△							

※目標未達成への影響度  
 ××: 事業が効果を発揮せず。  
     指標の目標未達成の直接的な原因となった。  
     ×: 事業が効果を発揮せず、  
     指標の目標未達成の間接的な原因となった。  
 △: 数値目標が達成できなかった中でも、  
     ある程度の効果をあげたと思われる。  
 - : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが  
     明確なので、評価できない。

※要因の分類  
 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。  
 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。  
 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。  
 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	<p>今後も、道の駅の利用に対して、市民や利用者の意見を把握し、利活用を推進するとともに、更なる伝建地区へのエントランス機能向上を図る。                  また、繁忙期、イベント時の臨時駐車場への誘導を効率的に行う。</p>	<p>町並み保存センターへの入館者数の増加を図るため、展示物のリニューアルを図るなど、魅力向上策を推進する。</p>			
------------------	--	--	--	--	--

#### (4) 今後のまちづくり方策の作成

##### 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画庁内連絡会議	・建設課、都市整備課、観光交流室、文化生涯学習室、総務課	平成23年10月25日	建設課(主管課)

##### 添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
竹原市の観光名所としての「伝統的建造物群保存地区」にふさわしい環境整備、周辺整備が急務である。	・伝建地区では、景観に配慮した側溝蓋の整備により、快適な歩行空間が確保され、快適性が高まった。 ・また、伝建地区周辺には主要な観光施設への誘導サインが設置され、回遊性が高まった。	・側溝蓋の整備や誘導サインの設置により、伝建地区内の回遊性は高まり、松阪邸、歴史民俗資料館、光本邸、森川邸などの主要4施設の入館者数は増加したものの、町並み保存センターへの入館者数は減少した。そのため、伝建地区および町並み保存センターの魅力を高める方策が必要である。	・道の駅の防災拠点としての役割について、周辺地域に対して一層の意識づけを行い、災害時のスムーズな利活用を推進する必要がある。
当該地区へのエントランス機能である、駐車場、観光情報、物販コーナーを機能的に整備する必要がある。	・駐車場、観光情報、物販コーナーを有した「道の駅」の整備により、利便性が向上し観光客数が増加した。 ・また、災害時には防災拠点として、地域住民の安心・安全性が高まった。	・道の駅の整備により、地域の安全・安心が確保されたものの、伝建地区への入込観光客数をより増加させるためには、沿道施設の魅力向上策が必要である。	・繁忙期、イベント時では道の駅の駐車場が満車状態になることが多く、駐車場を利用できない車もあり、対応が必要である。
当該地区は古い町並みである為、エリア内が迷路であり、来訪者にとって散策しやすい環境とすることが必要である。	・誘導サイン設置により、伝建地区へのアクセス性が向上し、観光客数が増加した。	・伝建地区内は迷路のような構造であるため、本通りだけでなく、裏路地を含めた回遊性の向上策が必要である。	
観光客と地元住民との交流活動が活発化される歴史的文化的資源を活かしたイベントである「憧れの路」の継続が望まれる。	・「憧れの路」イベント実施により、観光客と地元住民との交流につながり、市のPRIに貢献している。	・イベント「憧れの路」の維持・継続はされているものの、近年のイベント参加者数は減少傾向であるため、参加者増加に向けた魅力向上策が必要である。	

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	側溝蓋の維持・管理	・景観に配慮した側溝蓋の整備により、伝建地区の景観調和を図るとともに快適な歩行空間が確保された。今後は、引き続き、美しい景観維持に努めるとともに、側溝蓋の適切な維持管理を行う。	・住民主体の清掃活動 ・定期的な側溝蓋点検
	道の駅の維持・管理	・道の駅整備（ハード整備）が行われ、伝建地区への利便性やアクセス性が確保された。今後は、引き続き、魅力ある道の駅づくりに努めるとともに、道の駅の施設利用や駐車場の適切な維持管理を行う。 ・リピーターを増やすためには、きめ細やかな利用者ニーズを把握し、管理運営に反映させる。 ・国道や公共交通等からの誘導サイン整備や近隣地域等の情報提供を含めた観光インフォメーション機能の充実を図る。	・定期的なイベントの開催  ・定期的なアンケート実施 ・観光インフォメーションの充実 ・市のHPや多様なメディアを活用した継続的なPR活動
	誘導サイン(案内サイン)の維持・管理	・道の駅の案内サインおよび伝建地区における誘導サインの設置により伝建地区への入込観光客数が増加した。今後は、引き続き、誘導サイン(案内サイン)の適切な維持管理を行う。	・住民主体の清掃活動 ・伝建地区内への誘導サイン設置
	「憧憬の路」イベントの継続	・「憧憬の路」イベントを継続することにより、観光客と地域住民をつなぐ交流活動が維持されるため、地域住民のもてなしの心を育むとともに積極的なPR活動を実施する。	・市民のホスピタリティの向上 ・市のHPや多様なメディアを活用した継続的なPR活動

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	地域と連携した防災力の向上	・自治会や地域にある既存の組織、団体などと連携し、自助・共助につながる防災啓発事業を実施する。	・災害に対する啓発活動の実施 ・自主防災組織と連携した防災体制の充実・強化
	駐車場の確保	・土日およびイベント等のピーク時における駐車場利用者への対応が必要であるため、臨時駐車場や伝建地区周辺の駐車場への誘導を図る。	・近隣駐車場および臨時駐車場への誘導
	伝建地区および町並み保存センターの魅力向上	・ゴミのポイ捨て禁止や喫煙制限等の景観マナー向上に向けた取り組みを実施するとともに、景観の維持・管理に努める。 ・伝建地区において未利用になっている歴史的建造物の保存、再生等の検討を図る。 ・森川邸、松阪邸等の公開されている文化財の展示内容の充実と有効活用を努める。 ・町並み保存センターでは展示や収蔵、休憩および交流スペース、情報提供等の機能充実を図る。また、新たに判明した都市変遷などを踏まえ、歴史的な背景を説明できるよう、魅力ある展示物のリニューアルを図る。 ・リピーター確保のためには、裏路地の活用、魅力向上が必要であり、飲食店、お土産屋、体験コーナー等の充実を図る。 ・市民、NPO、事業者と連携しながら、歴史文化に関わる“酒、塩、竹”にふれあえる場づくりに努める。 ・交流・休憩機能の強化を図り、回遊性の向上に努める。	・景観マナーに対する啓発活動の実施 ・住民主体の清掃活動 ・竹原市歴史的風致維持向上計画の策定 ・伝建地区意見交換会の実施 ・町並み保存センターの機能強化と文化・交流施設等の運動的な整備・充実  ・迷路(裏路地)を活用した“ぶらりマップ”づくり
	道の駅と伝建地区をつなぐ快適な歩行空間確保	・だれもが歩きやすい歩道空間を維持する。	・定期的なイベントの開催 ・市のHPや多様なメディアを活用した継続的なPR活動 ・定期的な路面点検
イベント「憧憬の路」の魅力向上	・地域住民が主体となって賑わいづくりに取り組み、行政は側面支援を行う。 ・市内の地域団体との連携だけでなく、外(市外)との連携によるイベント実施。 ・観光客と地域住民を結び付ける情報環境基盤・体制を整える。	・広域観光体制の充実 ・市外団体との連携によるイベント開催 ・市のHPや多様なメディアを活用した継続的なPR活動 ・観光ボランティアなどの育成	

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

・道の駅を拠点とした観光振興や産業振興を推進するため、地域住民や民間企業との協働・連携のもと、利用客増加に向けた施策を推進することが必要である。

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。  
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画				
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項		
指標1	立寄台数	万台/年	0.5	H17	39.0	H23	確定	●	22.0	△	あり	●	平成24年10月	・平日・休日昼間12hの「道の駅」駐車場への入庫台数を計測し、計測した入庫台数に、夜間の入庫台数として、平成22年度道路交通センサス該当調査区間における夜間交通量に立寄率を乗じた台数を加え、年換算(平日245日・休日120日)することで、「道の駅」立寄台数の評価基準日(平成24年3月31日)における確定値とする。	-	
							見込み				なし					
指標2	入込観光客数	万人/年	55.0	H17	66.0	H23	確定	●	64.6	△	あり	●	平成24年4月	・平成23年(1月～12月)の「観光客統計」の入込観光客数を評価基準日(平成24年3月31日)における確定値とする。	-	
							見込み				なし					
指標3	入館者数	人/年	21,607	H17	26,000	H23	確定	●	22,474	△	あり	●	平成24年4月	・評価値と同様に、平成23年度(平成23年4月～平成24年3月)の町並み保存センターの入館者数を計測し、評価基準日(平成24年3月31日)における確定値とする。	-	
							見込み				なし					
その他の数値指標1	道の駅施設利用者数	万人/年	2.5	H21	/		確定	●	34.4	/	/	あり	●	平成24年10月	・平成24年度より、道の駅の管理は指定管理者が行う予定であるため、指定管理者より提供された平日・休日10hの道の駅利用者数(出入口3箇所における入場者数)の提供を受ける。 ・評価値と同じ計測方法により、道の駅利用者数を算出し、評価基準日(平成24年3月31日)における確定値とする。	-
見込み	なし															
その他の数値指標2	災害時における避難所の収容人口カバー率	%	46.2	H20	/		確定	●	53.4	/	/	なし	-	-	-	
見込み	なし															
その他の数値指標3	伝建地区における入込観光客数	人/年	27,278	H18	/		確定	●	35,408	/	/	あり	●	平成24年4月	・平成23年(1月～12月)の入込観光客数を計測し、評価基準日(平成24年3月31日)における確定値とする。	-
見込み	なし															

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>「観光客統計」を継続的に実施したことに加え、整備効果を定量的に確認できる項目を設定したことにより、事業効果を確認することができた。</li> <li>道の駅でのアンケート調査(駐車場調査を含む)を実施したことに加え、整備効果を定量的に確認できる項目を設定したことにより、事業効果を確認することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道の駅でのアンケート調査(駐車場調査を含む)の継続的な実施により、まちの課題の変化や事業の整備効果を把握することができる。</li> <li>なお、調査時期においては観光客動向を踏まえた日程を設定することが望ましい。</li> </ul>
	うまくいかなかった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>立寄台数の算出にあたっては、計測時点において観光客の利用動向に沿った立寄台数の算出が困難であったため、算出結果に影響を及ぼした。</li> <li>立寄台数の目標値については、道の駅の立寄率の設定が都市型ではなく近郊型に設定されていたため、現実的な設定ができていなかった。</li> </ul>	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>「観光客統計」を継続的に実施したことに加え、整備効果を定量的に確認できる項目を設定したことにより、事業効果を確認することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市再生整備計画の作成時には社会情勢を考慮に入れた指標設定をする必要がある。</li> </ul>
	うまくいかなかった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>立寄台数の指標について、都市再生整備計画の作成時には、道の駅の立寄率の設定が都市型ではなく近郊型に設定されており、現実的な数値より大きめな数値目標を設定していたため、目標値を達成することができなかった。</li> <li>伝建地区における主な観光施設の中で町並み保存センターのみ観光客数が減少しているため、施設に関する満足度を計測するべきだったのではないかという点。</li> </ul>	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークショップを通じて、参加した地元住民の地域づくり・地域振興への取り組み意向が高まった。</li> <li>ワークショップを通じて、行政と地域住民とのコミュニケーションが図られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークショップなどの住民参加は、まちづくり事業を円滑に推進するためには有効であり、継続的に実施していくことが望ましい。</li> <li>今後のまちづくりには住民の意向をできるだけ反映し、官民が連携することが有効である。</li> </ul>
	うまくいかなかった点	-	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の中間時点において、モニタリングを実施することで、事業進捗等の軌道修正に有効であるため、実施することが望ましい。</li> <li>今後のまちづくりは行政だけでなく、民間組織やNPO団体との連携等により、別の視点・角度からも検討し進めていくと有効である。</li> </ul>
	うまくいかなかった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>モニタリングを実施していないため、目標値を変更することができなかった。</li> </ul>	
その他	うまくいった点	-	-
	うまくいかなかった点	-	

添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

- 都市再生整備計画事業予定地区  
なし
- 事後評価を予定する地区  
新開地区

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに原案を掲載	平成23年11月8日～ 11月22日(2週間)	公表期間と同じ	担当課窓口、担当課への意見書提出により受け付ける	建設課
広報掲載・回覧・個別配布	・市広報誌	平成23年11月8日～ 11月22日(2週間)	公表期間と同じ		
説明会・ワークショップ	-	-	-		
その他	市建設課窓口にて閲覧	平成23年11月8日～ 11月22日(2週間)	公表期間と同じ		

住民の意見	<p>【事後評価原案公表への住民の意見】</p> <p>&lt;道の駅たけはらに関して&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道の駅たけはらの売店では、野菜や果実、魚介類、肉類などの農水産物をはじめ、加工品や加工食品、工芸品など様々な商品を販売しており、多くの観光客が訪れ、賑わいが創出されている。特に農水産物の人気は高く、地元住民の利用も多い状況である。また、その売店に出品者として参加している住民は自分が作ったものが売れることで、やりがいや達成感を感じており、道の駅たけはらがいきがい創出の場所となっている。</li> <li>・2階の観光情報コーナーでは、町並み保存地区の案内を実施しており、地元のボランティア団体とともに観光客をもてなす等、観光客と地元住民をつなぐ交流の場所となっている。</li> <li>・2階の地域交流スペースは有料で利用することが可能であり、地元のコミュニティ団体が活動場所として利用し、道の駅たけはらが憩いの場所となっている。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道の駅への案内がわかりにくい。</li> <li>・駐車場が狭い。</li> </ul> <p>&lt;側溝蓋に関して&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・側溝蓋の整備により、快適な歩行空間が確保され、地域住民の安心・安全性が高まった。</li> </ul>
-------	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	岐美 宗(広島商船高等専門学校教授)	平成24年1月18日	建設課	竹原市都市再生整備計画評価委員会 設置要綱	独自に設置
その他の委員	木村 眞紀子(竹原商工会議所副会頭) 原田 仁(元広島県農業会議事務局長)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・資料に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・指標1、指標2の評価結果は目標値に達していないが、従前値と比較すると大幅に増加しているため、評価できる。 ・指標3はもっと厳しく評価するべきではないか。 ・指標評価について、アンケート調査結果や利用者の生の声などからも評価する必要があったのではないか。  ・「道の駅」駐車場だけでなく、市の駐車場を開放すること等も必要では。
	実施過程の評価	・「道の駅」のワークショップでは住民からたくさんの意見を頂き、計画づくりに反映してきたが、「道の駅」の計画策定後、住民に対して説明が無かったことは残念である。
	効果発現要因の整理	・指標1の数値目標が達成できなかった要因としては、高速1000円割引や人口減少の影響等よりも長時間利用者(「道の駅」駐車場へ車を止め、伝建地区へ立寄る方)が駐車場を使用しているため回転数が伸び悩んだことや駐車場の収容台数に問題があるのではないか。原因を明らかにし、対策を検討する必要がある。
	事後評価原案の公表の妥当性	・住民の意見についてだが、「道の駅」のアンケート等、幅広い意見の収集をお願いする。 ・公表する際、市民に分かりやすい表現に心がけること。
	その他	・評価委員会の役割を明確にし、市民に分かりやすい評価システムを構築することが必要である。事業着手前に市民と行政が地域課題を十分に共有するための場が必要である。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きが妥当に進められたことの確認を得た。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・効果持続方策、改善方策と想定される事業とのつながりが分かりにくい。想定される事業を具体的にお願する。 ・伝建地区内の回遊性を高める策として、裏路地の活用や市民が主体となった取組み、情報発信等が必要ではないか。 ・誘導サイン設置により、観光客を効率的に伝建地区へ誘導でき、課題解決につながったが、裏路地を活用し、観光客を伝建地区内でさらに回遊させることなど、残された課題・新たな課題はあるはず。 ・竹原市は観光が大きな役割を果たしているが、知名度が高いとはいえないため、情報発信の方法やツールなど研究が必要。 ・町並み保存センターを活かすことも必要ではないか。 ・「僅標の路」については行政が行うのは限界があるため、NPO団体や各民間団体に渡すべきではないか。 ・魅力づくり、施設間連携による回遊性の確保、イベントの仕掛け等を行うことにより、参加者増加の可能性あるのでは。
	フォローアップ	・フォローアップの実施時期とその内容を説明し、すべての指標について了解を得た。
	その他	・道の駅利用者へのきめ細やかなサービスを提供するため、ニーズ・利用実態の把握を行い、改善目標を設定するべき。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策の妥当性について、了解を得た。
その他	・PDCAサイクルにより、今後も市民の視点に立った課題や問題点を抽出し、スパイラルアップを図ること。	